

3-E ウツクシマツの巨木 (美松)

ウツクシマツはアカマツの品種で、根元近くから多くの分岐幹を箒状に出し、樹冠は笠型になる。際立って巨大な巨木の報告例は少なく、比較検討のサンプルが少ない。よって、本書では各地のウツクシマツを紹介するに留める。



群生地を観察すると、単幹のもの、根元より叢生するもの、幹の中間で分岐するもの等が見られ、必ずしも同じ形態ではない。これは、滋賀県森林センターの研究で判っていて、幹を一本だけ伸ばす機能が崩れた劣勢遺伝によるもので、メンデルの優勢の法則に則って遺伝する事が判明している。

2008年の観察では、一部に松食い虫の被害が見られ、消毒散布をしなければ、全滅の恐れがありそうであった。



▲写真 UM-001

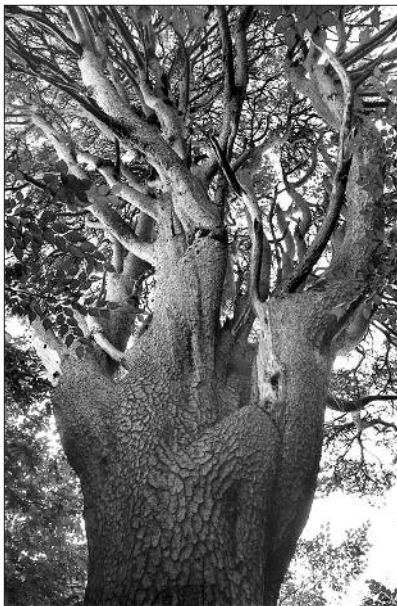
ひらまつ
平松のウツクシマツ(最大株)

滋賀県甲賀郡甲西町 松平
幹周 M4.35m(1.3m 2008) 樹高 15m
美松山の南東斜面一帯にウツクシマツがおよそ 200 株が群生し、その中で最大株。

▲写真 UM-002

霧ヶ窪のウツクシマツ

岩手県二戸市福岡字桐ヶ窪
幹周 5.7m 樹高 20m
(写真・石田徹)



▲写真 UM-003

火炎松

青森県三戸郡階上町道仏字天当平
幹周 3.7m 樹高 22m
(写真・Web 画像)



▲写真 UM-004

枯死・東北山の千本松

長野県松本市五常
幹周 5.2m 樹高 28m 2015 年枯死
(写真・Web 画像)



▲写真 UM-005

山田の千本松

岩手県九戸郡軽米町軽米
幹周 4.1m 樹高 17m
(写真・秦広志)